

## 白山 瀬女～ショウガ山～白山

田村 他

【日時】 2011年5月3日(火)～6日(木)

【メンバー】L田村、金沢、今井、小川

白山本峰を西から目指すなら、白峰から取り付くのが簡単だ。しかしせっかくなら、この尾根の末端である瀬女(せな)から歩き通したい。例年ならひどい藪こぎとなるだろうが、今年は幸い雪解けがかなり遅く、何とかかなりそうだ。この物好きな計画に乗ってくれるフレッシュなメンバーにも恵まれ、いよいよ実現する運びとなった。

## 5/3 晴時々曇り



夜行バスで金沢へ、さらにローカル線乗り継ぎ、鶴来(つるぎ)へ。古い町並みが旅情たっぷりだ。タクシーの運転手は、瀬女から白山に登るなんて初めて聞いたと驚いていた。瀬女スキー場に届を出し、ゲレンデを登り始める。やはり初日は荷物が重い上に夜行の疲れもあり(仕事疲れも)辛い。大汗をかき、いつしかスタートのゲレンデハウスもはるか眼下になる。ゲレンデ終点からは雪もしっかり付いていた。三村山への登りは最短距離をと

ろうと正面の尾根に安直に取り付いたのが大失敗。次第に急になり、雪壁を避けるため藪こぎを強いられる。頭からかぶさってくる手強い藪だ。ほんのワンポイントなのにみんなへろへろになる。こんな藪こぎが延々と続くという越後の山はどんなに大変なのだろうという話で盛り上がる。

今日の予定はショウガ山だったが、とてもたどり着けない。早めに休むことにして、大辻山の手前でC1。このあたり杉があり、人の手が入っているようだ。日はまだ高く、穏やかで気持ちいいので、テントに入るのはもったいない。小川君の提案で焚火を始める。雪上の焚火も実



に楽しいものだ。日が傾くまでのんびりした時間を過ごす。

5/4 快晴



3:00 起床。前日の炎天下と約2ヶ月ぶりという久しぶりの山歩きというのが重なり、疲れが抜けきっていない感じがする。まだ寝ていたいという気持ちに勝つように、体を寝袋から無理やり出した。朝食当番は金沢で、インスタントの味噌煮込みうどんに簡単なおかずを加えてみんなで食べる。軽量化を重視したため、簡単な食事しか作れず少し後悔した。早々と仕度を整えテントから出るころには薄明るくなり、ヘッドランプはいらなかった。

これからの長い行程を想い、気合を入れてザックを背負った。5:00 出発。雪が硬く、アイゼンを履いて歩き出した。歩いて早々軽いアップダウンを繰り返す。5:45 大辻山山頂到着。周りは広く視界は良い。太陽が出始めて、天気は昨日と同じ雲一つない快晴。日差しが刺すように降っている。個人的に日焼け止めを顔に塗るのはあまり好きじゃないが、さすがに塗らないとやばいと思った。日が出るにつれて雪もやわらかくなるが適度に締まっていて歩きやすい。厳冬期とは異なり行程がさくさく進む。約1時間おきの多めの休みを取りながらも、8:10 ショウガ山山頂着。長期縦走だと複数の山の山頂を踏めてやりがいがある。鳴谷山まで大小のアップダウンの連続で、連続すぎてあまり覚えていないが快晴の中、贅沢な景色を見ながら歩く。

鳴谷山 13:15 着。テン場予定地まで思ったよりも早く行程が進んだので1時間ほどの大休憩を取った。銀マットをひいて、昼寝をしたがその間に1年分程の日差しを浴びたと思う。15:00 に再出発し 16:20 ある程度の平らな箇所を見つけてテン場とした。周りはあまり木が無く、風が強かったので焚き火はできなかったが快適な場所だ。



着いて早々にビールで乾杯、旨すぎる。夕食も当番は金沢で、まぜご飯と味噌汁という簡素な食事だが腹を満たした。晴れているせいか明日の行程である尾根もテン場からくっきり見える。山登りに来ているのだから当たり前だが登りが連続している。明日もたいへんな歩きが待っている。

## 5/5 快晴

三日目も無風快晴の中を出発する。白山の大汝山・御前峰から別山までが望めるなかを歩いていく。3時間ほどで湯の谷乗越に着く。目の前の白山がいよいよ大きい。ここ本当にいくんですよね・・・。

何度も小ピークにだまされつつひたすらに登っていく。わずかに夏道やハイマツが現れている。稜線がハイマツになったピークを左から急斜面を巻いていくとついに七倉山の分岐についた。ここで既に11:30。今日も長い一日になりそうだ。

下った御手水鉢にて三日ぶりに人に会う。ここの登りでアイゼンを出して大汝峰へと向かう。疲れてきているふくらはぎには辛い登りだが、北アルプスを西から眺める展望が珍しくていつまでも観ていたい(休みたいだけ??)。劔岳から穂高までがくっきりと見えていた。登り1時間半で大汝峰へ。最終目標の御前峰はまだもうちょい残っている。



シリセードをしつつ下って、荷物をデポしてハアハアと登っていけば、御前峰はすぐだった。北アルプス・別山方面・その先の奥美濃まで山が見える。この時点でメンバーの気力も残り少なく、別山への行程は諦めて砂防新道へと下山することにした。

室堂まではシリセード多用で下りていき、甚ノ助ヒュッテが使えることを聞き出し、今日の幕場ときめた。しかし黒ボコ岩

からの下り道がわからず、稜線沿いに南下してトラバース道を選んだところで少し下りすぎてしまった。しばし行き先に迷うがトラバースするトレースに少しついていくとヒュッテの屋根が意外と近くにあった。

ヒュッテは新しく、しかも貸切!(トイレもある!)

ザックを二階の入り口にポンポンと放り込んでいると、田村さんが何か落ち込んでいる。どうしたんですか?と聞くと最後のビールがなんと破裂していたようだ。確かに悲しいですけど、そんなに落ち込まなくても・・・。夜は、おつまみとお酒を開放して白山の登頂のお祝いをした。

## 5/6 快晴

4時起床。快晴無風。

甚之助小屋前からは別山の眺めが素晴らしい。後ろ髪を引かれる思いで小屋を出発、砂防新道をぐんぐん下る。雪は固めではあったがアイゼン装着する程ではなかった。左手に別当谷、右手に甚之助谷。白山は尾根は大変穏やかなのに対して谷はとても荒々しい。

甚之助谷に大変立派な滝が出ていた。エアリアに載ってる不動滝だろうか?すごい滝だなあ・・・と思いながら視線を下げると、これまたスゴイ無数の堰堤!砂防新道の名はここから来たのだろうか?林道はまだ雪に埋もれていた。

1550m位でトンネルが見えてきた所で、尾根を下りて林道沿いに進む。前方に本日の核

心である吊り橋が見えてきた。室堂の従業員の方のお話では、まだ踏み板を張ってないけど皆渡ってるから大丈夫ですよ〜とのこと。一体どんな状態なんだー?!不安と好奇心で入り混じった気持ちで橋に近づくと、平均台位の幅の鉄の板が中心に1本通ってるだけ。手すりはワイヤー。ひえ〜っ!!まあ通過する分には支障はなかったが、とにかく長い橋で途中でちょっと背筋がゾワゾワしたりして。

橋を無事渡り終えると別当出合到着。屋根付きの立派な休憩所があって(テーブルや椅子もある)テント張ったらさぞかし快適だろう…。例年ならGWには別当出合まで車で入れるようになるそうだが、今年は雪が多く除雪はまだであった。

そして、いよいよ白峰まで約19kmの林道歩きが始まった。林道脇の雪が解けたところに咲いてるフキノトウを摘みながら進む。林道の雪は市ノ瀬の手前で完全に無くなったが、白峰のゲートが開いてない為、市ノ瀬はビジターセンターも永井旅館も人の気配が全くなく、単独登山者が一人休んでいただけだった。市ノ瀬から白峰までの林道歩き(約13km)は本当に長かった。林道の横を流れる手取川の青い水の流れに慰められた。コゴミやツクシ、フキノトウなどの山菜、キクザキイチゲやザゼンソウなどの可憐な花、満開のヤマザクラ、そして新緑・・・高度が下がるにつれて季節はどんどん進んでいく。



登山靴で林道を歩くと足が辛いので市ノ瀬でサンダルに履き換えたのだが、歩きは楽になった半面足裏に靴ずれが出来てしまい、後々悩まされることになる。

林道は雪はなかったものの所々に落石や雪崩跡が見られた。作業員の方が撤去作業をしていて、まだ白峰のゲートを開けられない理由も納得できた。たまに目についた山菜を採りつつ、ひたすら黙々と歩き続け、無事白峰に到着した。白峰は小さな集落だけど、板壁の古い家並みが何とも風情がある。白峰温泉総湯で汗を流し、食堂で白峰名物の堅豆腐とビールで乾杯し、山行の成功を祝った。

### 【感想】

(金沢) 下山後、両足がパンパンに腫れて普段履きのスニーカーが履けなかった。歩き通しの行程で疲れたが達成感でいっぱい、参加させてもらいよかったと思う。3泊4日という長期山行は初めてで、本当に歩き通せるか心配だったが、メンバの方の助けと毎日の冷えたビールとおいしい夕食のおかげでなんとか歩き通すことができた。また、行程中一度も曇ることなく、常に遠くまで見渡せるすばら



しい景色を堪能しながら歩くことができ、奇跡の山行だったと思う。

反省点はルートファインディングで何度か現在地を見失う場面があり、リーダーの説明を聞くたび納得。技術不足を痛感した。来シーズンまでの課題としたい。最後にリーダーの田村さん始め小川さん今井さん、同行していただきありがとうございました。

(今井) 私にとっての白山は、昨年大白水沢を遡行したのみでほとんど未知のエリア。そして今回のルートは登山道のない積雪期のみ楽しめるルート。ダブルの期待感を持って挑んだ山行だった。

積雪量の多さと天候に助けられ、予想をはるかに超える素晴らしい山行となった。常に素晴らしい展望に恵まれ、刻々と変わる雄大な白山の峰々の眺めは本当に素晴らしかった。東京からは遠いけど、またぜひ訪れてみたいエリアとなった。

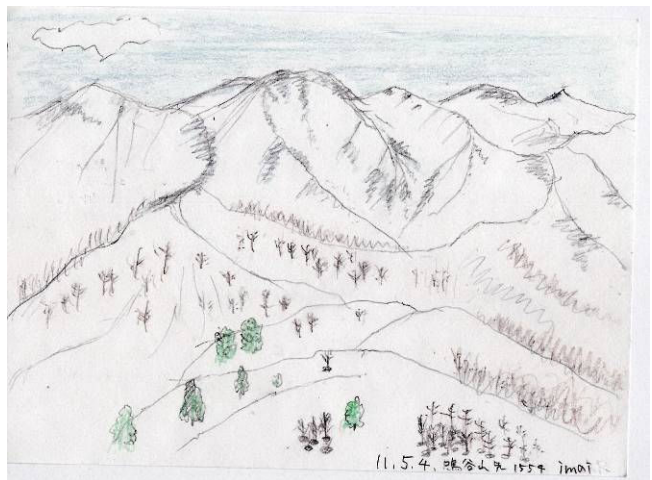
しかし、山行は楽しいことばかりではなく、アップダウンの連続の尾根歩きは本当に試練の連続だった。そんな時ふと脳裏にNHK大河ドラマ「江」にでてくる千利休の言葉「無理は人の心が決めるもの」という言葉が浮かび、あともう一步とひたすら黙々と歩きつづけた結果、なんとか山頂に辿り着くことができた。

こんな素晴らしいルートを開拓・計画してくださった田村さん、常に先導してトレースをつけてくれた小川さん、おとぼけキャラ?で周囲をなごませてくれた金沢さん、楽しい山行をどうもありがとうございました。

(小川) 今回は田村リーダーに誘われて初めての白山に行くことができました。丸四日、静かな稜線歩きを楽しめ、白山好きが多いのもわかるような気がしました。今度は、できれば沢でも白山の奥深さに触れたいです。また行きましょう。

(田村) 下山後に改めて地図を見て、よく歩いたなと思う。このルートを辿った人は皆無ではないだろうが、実際に歩いてその充実感を味わった人は、そういないだろう。

やはり私は、静かで自然豊かなところをできるだけ長く奥深く行くのが好きだ。そしてそれを楽しめるフィールドとして、白山はとてもいい山城だと思う。別にこだわっていたわけではないが、気付いたら何度も足を運んでいた。恐らくまだあと数回は来ることになるだろう。関心のある方はぜひ一緒に行きましょう！



## 【行程】



5/3 瀬女(9:20)～スキー場終点(11:40)～大辻山手前 C1 (16:00)

5/4 C1(5:00)～ショウガ山(8:10)～鳴谷山(13:15)～Co1712m先 C2(16:20)

5/5 C2(5:00)～湯の谷乗越(7:55)～七倉山(11:00)～御前峰(14:15)～甚ノ助ヒュッテ  
C3(17:00)

5/6 C3(5:50)～別当出合(7:20)～市ノ瀬(9:25)～白峰温泉総湯(13:45)

【地図】市原、白峰、新岩間温泉、白山、加賀市ノ瀬

【概念図】

